

同志社大学英文学会

2009 年度年次大会および総会

日時：10月25日(日) 12:30~17:10

場所：同志社大学今出川校地 明德館1番教室およびラウンジ

受付：12:00~ (明德館1番教室前)

開会の辞 (12:30) 会長 龍城正明

年次大会

研究発表 (12:40~14:25) 司会 下楠昌哉

アンドルー・マーヴェルのイングランド内乱における

武力行使の肯定 (12:40~13:15) 本学文学研究科博士後期課程学生

小林麻美

司会 藤井 光

「船頭」と「馭者」——マーク・トウェインの旅行記における

言語使用の傾向 (13:15~13:50) 本学文学研究科博士後期課程学生

別所隆弘

Light in August における外部者たち

——空間表象との関わりから (13:50~14:25)

本学文学研究科博士後期課程学生

金廣 顕

----- 休憩 (35分) ラウンジにて -----

特別講演 (15:00~16:30) 司会 中井 悟

戦争を放棄した日本には、

どのような対外言語政策が必要か

慶應義塾大学名誉教授 鈴木孝夫

総会 (16:30~17:10) 司会 秋篠憲一

会計報告 下楠昌哉

諸報告 金谷益道

閉会の辞 大会準備委員長 金津和美

懇親会 (18:00~20:00) 司会 斉藤延喜

会場：ホテルグランヴィア京都3階 源氏の間

(京都駅ビル内 地下鉄5番出口) Tel. 075-344-8888

会費：一般 8,000 円 学生 7,000 円

特別講演者紹介—鈴木 孝夫 (すずき たかお)

慶應義塾大学名誉教授。マギル大学イスラーム研究所員、イリノイ大学、イエール大学客員教授、ケンブリッジ大学客員フェローなどを歴任。言語社会学者。文化人類学や社会学的な視点から言語と文化や社会の関係を分析した研究は高く評価されている。また、近年は日本での外国語教育のあり方や地球環境問題等についての提言や著作も多い。主な著書として『ことばと文化』『教養としての言語学』『日本人はなぜ英語が出来ないか』(以上、岩波新書)、『閉された言語・日本語の世界』『武器としてのことば』(以上、新潮社)、『日本語は国際語になりうるか』(講談社学術文庫)など多数。『ことばと文化』には英訳版 *Words in Context* (講談社インターナショナル)、韓国訳版(『翰林新書』80巻、図書出版小花)などがあり、『閉された言語・日本語の世界』もドイツ語に翻訳されている。岩波書店からは『鈴木孝夫著作集 全八巻』が刊行されている。